大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 毎月一回十五日發行
大正十四年十一月十日印刷納本 大正十四年十一月十五日發行

光

第四十七輯

大正十四年十一月

◆浄財……西田天香
◆飛躍……西田天香
◆朝鮮の光郷……みかみかすし
◆折にふれて……八田勝三
◆A氏にあてたる……嵯峨徳水

同人　懺悔報恩の奉仕者
祈願　不二の光明によれる生活
費用　供養されたる浄財

◆屋根裏の幸福者……すゞき五ろう
◆入信難……茨木操
◆路を斯う經て參りました……KN生
◆未明の先驅者(二)……水上鐵治郎
◆英國社會運動史(一)……松下吉衞
◆東京一燈園より……敬偉無

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至淸規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは、個中の消息もとよく言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絶し、以て齊家治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

淨財

西田天香

今日は淨財について申します。

淨財とは普通の財には用ひぬ言葉です、寺の寄附などを淨財と云ひます、淨まつた意味の財であります。私は此生活の始まつた時から、淨まつたものでないと預からぬと、强硬に主張したので西田君の淨財論と人が言ふ程、財を扱ふのに眞劍に淨めやうとしたのです。奪ひ合ひはせぬ、もしそれで養はれないなら死んでもよい、生存の爲に爭はねばならぬなら生きないでもよい、そう祈りきつた時、ゆるされた生活が開けました。どこまで行つても勢力範圍の世の中、喰はむとすれば奪り合ひせねばならぬ、こんな世の中に、奪り合ひはしかたがないと諦めたのか、しかたがないのか、あまり問題にする人も多くはない。またかへつて、奪り合ひすることを辯護する事を見る、總ては奪ひ合ひでないか、空氣を吸ふても黴菌を殺してゐるではないか、それと同じやうに、淨財なぞいふてはゐられないと、奪ふ事を肯定してゐます。そこに惱みが起るのです、今の世の中は淨財といふさへ不思議とする程であります。私はその問題を突破せんとして此生活が生れました、赤兒の泣き聲に母の乳は淨財であります、喰べるものも與へるものもよろこぶのです。三度髪を結ふのを一度にしますからどうぞといつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て、供養せられた時、私はよろこんでその家の最下級の物を頂いて養はれました。私の淨財論は、私の體をもつて調べんとしました、私は自分の命をつなぐ爲に無理をしてまで生きる事は出來ませなんだ。そこが此生活の山といはうか、最も緊張したところで、淨財論は、最も嚴肅であつたのです。生存競爭を肯定したものを喰べるなら、私はあとかへりであります、それでは普通の商人とかはらぬ、人が問題にもせぬ、また行かうとしても行き得ぬ、其關所に立つた、私は淨められた殘飯を喰ひ、道に散らばる米を拾ふて關所を超えました、不淨なもので此身は養はぬ、お光の許しがなければ頂かぬ、そうして淨財には愼重な態度をとつて來ました。一燈園は、そこから生れ出たのです。

平井竹次郎といふ人が祇園あたりをマッサージの托鉢して歩いて、志のある方の二尺づゝの布切れを集め、その布切れは内にあるもの買ふものそのまゝでなく、先づ懺悔してそれを二尺の布切れにして下さいといつて淨まつたものを集めて、繼繼の蒲團を造つて一燈園へ贈られました、今は洗ひさらして字もはつきり見えませんが、どこかにまだ殘つてゐます。お今といふ婆さんがゐました、みんなは、いゝ婆と呼んでゐました、いゝ婆は念佛をとなへては、古綿をほごして一組の蒲團を造つてくれました、私は今もそれを用ひてゐます、一燈園にはちよつとしたものにも隨分淨められたものがあります。秋田縣で月に一度づゝ發作的逆上する婦人がありました、此生活にだんだん落ちついて、お針子をとつてゐましたが、其婦人が糸つなぎをしながらよく私の話を聞いてゐましたが、その糸で一反の布を手織しておくられました、それも何かになつて園に殘されてゐます。私はまた西村屋でいつも托鉢してゐましたが、何にも貰うた事はないのでしたが、或時今の家内と、夏子といふ娘さんとが、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

賴むやうにしてメンネルの筒袖を一枚おくられました、それを東京の今佐倉宗五郎といはれた田中正造さんに由來を話して供養し大變よろこばれた事があります、物を供養せんとせば、檀の下に置て兄弟と先づやはらいで來れと、クリストはいはれました。

宗教の爲に金が要る、宣傳に金が要るといふのは、間違ひであります、その金を突き返す時に、道がはつきりします。

小さな自分から離れて大きな自分になつたら、大きな痛みを知る筈であります、光は一切の惱みを如實に知るのであります。此生活に入つたものは、お光に還つて一切の惱みを味はゝねばなりません。一切の爲にも金は要るではないか、と言はれます、どの問題にも、經濟問題の支配を受けぬはない、世の行きつまりが、政治家や、學者によつて整理出來ないのは、魔がついてゐるからです。金が要るといふ魔、それには皆降參する、宗教も政治も倫理も道德も、金の爲にメチヤメチヤにされる。あらゆる宗教家は、經濟問題を整理せねばならぬといひますが、果してどこまで整理し得るか、お光は、そこを鮮やかに整理してくれました。至難な經濟問題を、整理してゆくところ、誠に一燈園の生命であります。私達が淨財などいふのではない、お光がそういはしめるのです。一燈園の淨財論といふのは、單なる淨財論ではない、拔身の中へ諸肌脫いで飛び込むといふやうな氣持です、積んでは壞される障りの多いその中を通る、拜んで拜んで一行の托鉢をして通る、その中に淨財論がそなはつてゐるのです。無一物といふても、やつぱりいるものはいる、いろ〳〵のものがなければ、暮しは出來ぬすればどこかで取つてゐるのであらう。敎育はどうする、養老はどうする、と批評もされます。し

かし、そういふ人から始終一燈園の人は頼まれてゐますが、こちらからは何にも頼んだ事はありません。一燈園の作法の通りに素直になるなら、頼まれる許りで、頼まずにゆかれます、又いつたいいつまでそんな生活をしてゐるのか、一通り終業が出來たら、たいていに切りあげたらどうか、などといはれます。此生活の事實を、世の疑ひの眼には、想像の出來ない事のやうにおもはれます、こんな事には身を以て回答してゐます。

大切なものはお光の心であります、このお光の心を肉體に持つ間は、この肉體をどうまもるか、最も權威ある養方をせねば、持つお光を侮辱する事になります。どこまでも淨財をもつて、身を護らねばなりません。精進を怠り自ら妥協してかゝつて悟つたと平然として平和を亂したりするのは、野狐禪といふのです。そうした人達からは、私達は小乘的だといはれますが私はやはりこうしてゐます。私からはまた野狐に墮したと見えるのです、私は夫等の人達にも頼まれて暮してゐます、が白と黑とは、大變違ふのです。世間の娘さんと、一燈園の娘さんと日常が大變違ひます、またそれだけ世間で可愛がられやうが違ひます。澤山な荷物でお嫁入りしても、氣の毒な事がある、お里が違ひます。一燈園の娘さんは、一箇の荷物も無いけれども、他のしらぬ、樂しみを持つてゐます、びく〳〵しない、どこかに落ちつきがあります。貧しい樂しみといふのか、法悅のたのしみといふのか、白ゴマと黑ゴマとは、お里が違ふのです。まづしいなり、どこへでも落ちついてはいつて行きます、白刃の中へ行つても切れぬものがある筈です。もしその魂がハラ〳〵しだしたら急轉直下であります、見すぼらしいものになつて仕舞ひます、逃げてはならぬ隱れてはならぬ、勇敢に衆の中へ出て、しかも不淨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

財は受けぬ、もし世間の行方に敗けて仕舞ふては、他にどれ程のよいものがあつても、これ一つで崩壞であります。

二十年程前、私の生活がまだよく友達の中にも理解されない頃、ある友人の別莊へ招かれました、私とそ知る人知らぬ人大勢集りました、私は今とは違ひ、もつともつと貧しい身なりで參りました、私とその主人と、今一人の友達と、三人中のよい同志が久し振り逢ひましたので、こんな事がめつたにない事だから記念の寫眞を撮らうといふ事になりました。この二人の友達は、私とは違つて地位があり大變なお金持です、その目からは私をまだ、多少、氣狂ひぢみてゐるとぐらひにも見てゐたでせう。私は横へ蹲んだ、岩の兩側に友達がわかれました、そして私に、それでは調和がとれぬ、乞食のやうでもあるが佛のやうでもある、眞中へ坐禪をしてみてくれといはれます、その寫眞では、二人の友達は、兩側立ちの様に見えました、氣狂ひぢみてゐると思ひながらもどこかにたゞの氣狂ひでない直感があつたのでせう。これでもふだん私が此人達にお金の無心をしたり、物を欲しがつたりするやうな慘めなものに見え出します、私はたゞ今はさつぱりした着物に、扇子時計なぞ持つてゐますが、淨財の氣持を毫末も忘れません、それは私の命です。

淨財論を應用して、日常の實際托鉢の中へあてはめてみます。朝早く托鉢の家へ行く、さあどうぞといつて御飯が出る、ヒヨッと無雜作に喰べてしまうと淨財はちよつと濁る、托鉢の家では、仕事に來たのだ喰べさしたら働くと思ふて仕舞ひます、それが引いては喰ひつめて、一燈園へ來た人だとか、

十八錢の人夫だといふ事になります、十八錢の人夫といふのは、十三錢の電車の往復に、五錢の風呂代だそうです。そう云はれても仕方のない樣な托鉢のしぶりの人もゐる、御飯が出ても、了解されるまで、一通り拜でゐねばなりません、園ではよくそれを敎へてゐる。昨夜こゝで水瓜のお供養があつた、私はそのまゝ頂かうとしましたらお典座の人が、摩訶般若をやり出した、たつた水瓜一切れにもそれである、ふだんによくそれを敎へてゐます。そうして拜んでゐる事が、どこへとなく響き、敬虔の念を起させます。そうして頂くものは、淨財となります、萬一侮辱の言葉をかけられても、靜かに敬虔にぢつと祈りに沈めた言葉をもつて答へれば、すぐもり返す事が出來ます。必ず悔いさせ、淨める事が出來ます。電車のキップ一枚頂く時にも、キップはいらぬといふ內容が大切です、キップはなうてもよい、ただあなたのお仕事の律を上げる爲にといふ腹があつて頂くのでないと、不淨財となります。その家から頂くのでない、お光から頂くのです、拜んでお光へお禮をする、敬虔の念がなければ拜む事も形だけになります。新聞の中に活動の半額券が這入つてゐる、行きたそうにして話すと、たまには行つて入らつしやいませと、氣持よく半額のお金を出される、それにつられて見に行く、そうなるとお話になりません。或時三人の托鉢者が衞生掃除に行つた、壹圓づゝお供養せられた、一人はそれで活動へ行く、一人はビヤホールへ行く、一人は園へ歸つてそのまゝお光へ供へられました、たまに一圓にありついたので、ビヤホールへ行くといふのは、ふだんその人は、乞食の生活をしてゐたといはねばなりません、淺間しい心持では、慘めな生活になります。

貧しう見えながら毅然と輝いてゐなければなりません、これを押して行くと、こんな話がありま

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

す。

私の義理の弟の又藏が、銀行の用事をしてゐました。私の長男の保太郎が、それに頼まれて、配當株の忙がしい托鉢に行く。銀行の事でありますし、又藏は保太郎さんに時計を持つて貰はねば不便だとて、又藏は自分の母に、安く賣る店を教へて、あそこでひとつ時計をわけて貰うたらと相談しますと、母親は、一燈園生活の金の要らぬといふ事を問題にしてゐた矢先きとて、直ぐ一燈園かてやはり金がいるなと云はれました。又藏はなぜと反問しますと、母親は、でも時計を買ふと金が要るといふのです。又藏はそれきり時計の事は云ひ出しません、母親はまた、後になぜ時計を買はぬのかとき〻ますと、又藏は、何も一燈園の托鉢する人が時計が要るのではない、用事を頼むこちらに時計を持つて貰はぬと、不便なので持つて貰うといふのですとて、遂に母親は、會得しました。ハッキリしてゐると、躊躇なく得心の行くやうに答へられます。

或時私が警察へよばれて、調べられ、金は入らぬなぞいふから、目に立つのでないか、と注意されました。私はほんとに金は要らぬのですとハッキリ答へました、やつつけるのではないたゞありのまま平易に要らぬのです。

お光の山最緊張の此處を威張らずけがさず、自分を養ふ衣食住を淨めて行かねば、人が救はれる事も出來ず、少し間違ふと、お光への冐瀆であります。男の威張りたいのも、女の着飾りたいのも、腹に力がないからです、魂が小さいからです。また精神的に不淨なものを求めてゐるものは、ちよつと重く用ひぬと、機嫌惡くしたりする、自分で重く出やうとしても、人は見とめない、隱れても引出される樣、內面に確なものを持つ、そうした人程謙遜であります。面へ出さぬやう、こ〻ぞといふ時出て來るのは驚異に値するものです、牛とよばれ馬とよばれるも、たゞ尊しといふ落ちつきがなければなりません。

—— 大正一四、八、一九、於一燈園講話筆記 ——

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

飛躍

西田天香

新生涯は普通の道德習慣から棄恩入無爲の生活へ飛躍するのです。斷難い恩愛をも斷つて無爲に入るのです。出家沙門ではありませんが同じ十字街頭であります。一度どうしても普通の義理人情を捨てねばこの生活は出來ません。出家と違ふ所は家族ぐるみの生活であり又どんな產業でも預るのです。妻を持ち肉食をしてそれが少しも障りにはなりません。在家に交つて棄恩入無爲となるのです。行じ難い事も、飛躍によつて救はれます。飛躍なくして救濟なし。初めから一切の飛躍は出來難いのですがお光に隨うた心、その飛躍だけが救はれる。飛躍出來ないで、落ちて行くだけが地獄をつくる。過去二十餘年の間に、とつおいつ考へました。むづかしい事をせず、もつと落付いて救はれる法がないか？　飛躍だの捨身だのと言ふと驚かれます。人間には慾があり、捨てられぬといふ。捨てぬなりに救はれる法は無いものか。無いのではないが其境は容易に得られぬ。飛躍の後なら手に入るかも知れませぬが、そのまゝでは自分のものにはなり得ない。平氣で人を殺して極樂に行けるとは思はれぬ。禪の師家南泉が猫の首を斬つた時、恐らく南泉それ自身はその時首を斬られてもビクともしなかつた事でせう。法を聽いても落ちつくやうに聽かねばなりません。

或る時、眞宗の僧が『阿彌陀樣の方で願を立てゝゐて下さる、たゞハイとお受けすればよい。』と申されました。その時私は逆に『どうかして地獄にゆけますまいか』すると、僧は『まあ行けますまい。』

『有難う』と言ふた事でした。普通では、ハイとお受けせよといはれても、そうは信じ難いものです。南無阿彌陀佛が飛躍です。人間の智慧では、飛躍を大層に思ひます。知らず〳〵飛躍の實驗を握つてゐる園の人は、實家へ歸るのでもちよつと行つて參りますといふ態度でまた此方へ歸つて來られます。それは生活が飛躍してゐますから。物を持つ實家は賴みにならず物足りなくて何にもない飛躍した世界が慕はしいからです。きらびやかな中へ黑い筒袖一つで何も思はず行けるのも、入無爲だからです。

一度すべてを、ふり切つて了へば後は樂です。或る時汽車に大變雄辯な人が乘つてゐました。その人が、『かうして汽車に乘つて行くのもつゞまりは餌をあさつて居るのだ、』といふのです。おもしろい事だと思ひました。私は自分の境涯を顧みてうれしく感じました。自身の執着がなくなつて自分が大きくなり、人の家へ行つても自分の家と同じやうに思へるのです。人の爲めには、お役に立つだけ立たせて貰ふてそれで死ぬ時には一人の醫者がゐなくても安心して死なれます。一鉢千家飯。孤身幾度秋。不空亦不色。托鉢中にはよく日を忘れることがあります。遂には自分の歲すら忘れる。孤身幾度秋、いくつになつたといふ事すら忘れて超然とします。『明月水中に浮ぶ。』といつた氣持、その境地にまででねばならぬ。餌を求めて歩いてゐる境地ではありません。こんな事が僞善であるとか無理な生活だとか人間味が無いなど言はれます。その癖托鉢はして貰いたいといふのです。或る僧侶が、或人の此生活に入らうとするのを極力止めましたが愈入園すると決つた時その場で直ぐこちらへ托鉢をして下さいと賴みます。そこが人間でせう。便利な處だけおつかひになります。

敎育や、經濟、宗敎の事でも、飛躍せぬ研究は徹底しませぬ。たゞ理屈づめでは思ふ所に行けませぬ。女房を持つ宗旨でないお寺の僧が、內密に外に婦人を持ちました。それが爲めに經費が餘計に要

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

るやうになりました。そして上るものが一人居る時より少なくなつたのです。それで、窃かに、その婦人を寺へ入れて同棲しますと、お寺に婦人が居たり、むつきを干したりしてゐて、氣持が惡いといふて上り物がまた少なくなりました。それで今度はどうにも生計が詰りますので役場へ勤めに行きました。處が偶然にも滯納の税金を取立に行かねばならぬ破目になりました。するとまた和尚が金を集めに來るのは憎らしいといふて上り物が殆んど無くなりましたのでとう〳〵寺を出て了ひました。慾が出ては佛に養はれる資格がなくなります。ちよつとあれをと手を出すと飛躍の光が消えます。最後の一息がハッキリせぬと九天と九地の懸隔を生じます。

光は智慧では見えません。一度、光を見たものは智慧の世界でない事がハッキリわかります。問題を扱ふにもグラ〳〵せぬやうに實家へ歸つてもすなほに親の魂を拜んでゐるとよろしいがグラ〳〵すると共に危くなります。飛躍の處に儼然としてゐますと山の麓で雷が鳴る。それは何ともありませんがうつかりすると頭の上で破裂の音がします。

私も飛躍の時は祖先を思ひ或は家を思ひ妻を思ひ兒を思ふて何となし泣けました。これが普通の習慣になつてゐたら、今頃は行詰つて居ませう。私の友達で實業界で有名な人々でも、いま殆んど完膚なきまでにやられてゐます。これに比べて私達の惠まれてある事をつく〴〵悦びます。

日露戰爭の際探偵が捕はれて軍隊で銃殺する時そのまゝではどうしても撃てなかつたそうです。傍へ行つて頰でも頭でも力にまかせて拍ちます、すると大抵は反抗の態度を取つて手が利かないなりに恐い顏をしてにらみます、するとその時引金が外されるそうです。正しい良心はどんな場合でも誰にも潛んでゐます。私共はこの良心の光を消したくない。光にすべてを委ねきるのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

朝鮮の光郷

みかみかずし

大邱から汽車で永川に着き、永川邑内から徒歩で、朝鮮らしい水の少ない河を、旅人の爲めに作られた飛石の橋を渡り、そんな河を一里置きに三つ程も渡つた頃やつと知谷面に着きました。純朴そうな白衣と煙管の田舍の人に道路で會ふけれど、朝鮮語をしらない悲しさ道を問ふ事も出來ず、獨りで右往左往尋ねて賢皇洞の李命錫樣の家に着いた頃はもう全く日が沈んでゐました。啞の一人旅とはこんな事でせう。幸ひ李命錫樣はゐられたのでホッとしました。

狹い天井の低いオンドルで、薄暗い傘なしランプを中心にして色々語り出したのはそれから間もなくの事。村の巡査の方々、面事務所の書記の人達、シオン村の同人達もゴタゴタと圓座に坐つてゐられる。外は田舍だけに流石に、夜は寂かで、遠くに犬の吠えるのがきこえる。オンドルはよく燃えてゐると見えて、尻の下の床がポカ〳〵と暖い。村の人々は私の顏を見たり、李さんの顏を見たり、皆の顏には何となく平和な色が浮んでゐる。壁に張られた、イエスが弟子の足を洗ひ給ふ繪を茫乎見てゐると、「シオン村は朝鮮の一燈園でありたいと思ひます。」と李さんは物語を始められました。

李命錫さんは一燈園から歸られて、もう二年

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

か三年になるでせう。次第にお仲間の間に連絡がとれて、同人の人達とシオン村を作つてゐられる。シオン村は祈りと勞働を中心とする村で、人の生れた時の裸に出來るだけ近い單純な生活の中に、無言裡に祈りつゝ勞働を續けて行きたいとの念願だそうです。そうした心でする勞働は矢張り工場勞働よりお百姓になる、殊に朝鮮は農業國であるから、歸農的にお百姓でありたいと云つてゐられる。今は面から頼まれて、白鶴學院（普通學校程度）をシオン村の同人でお世話してゐられる。學院を中心にしてある農地をシオン村の同人は耕してゐられるのです。李命錫さんの机の前に二本の實のつた稻が結び合せて、うやうやしく掛けてあるのも、農夫らしく祈禱者らしい。李命錫さんは家族ぐるみこゝへ移つて來てゐられる。この頃村の畑には、支那白菜、苷、綿等が作られてあります。村の稻はそう澤山はない。大へんよく出來てゐるように見えましたが、李さんの話では、少し苗の腐る病氣に罹つて不出來とか。

「白鶴學院の用事に手を取られて、村の事は殆んどお留守になつてゐます。それにこの耕作地は借地で、先づ私達は小作人です。又この土地はとても狹ますぎて同人皆が引き越して來るわけに行きません。でこんど鐵原の方に五町餘り土地を買ひました。こゝへこれから家を建てゝ同人等と移りたいと思つてゐます。先づこれからがシオン村の出來上りで、この賢阜洞はその準備のための試みと云ひたい方です。私の今の考へでは其五町歩でも尙足らない氣がするので、も少し買ふつもりでもあるし、又買ひ得る土地の餘裕ある土地を選んだ積りでゞもあります。けど何しろこれから少し同人は消費ばかりをしなければなりますまい。白鶴學院の用事

に手を取られたり、この今の土地が狹かつたりする事から、同人の心が今幾らか散つてゐますが、鐵原の方に移ると共にいつでも集れる用意は出來てゐる樣です。然し皆なが家庭ぐるみ來られるかは解りません。昔から男子と顏を合せない習慣をもつてゐる婦人を皆なと一所に耕作する樣にするのですから至難な事が色々起りませう。」と李さんは悠々と話されました。

同人の人々には李命錫さん一家。陝川郡で家庭の事情から急にシオンの手傳も出來かねてゐられる許範さん。禪家の人でかつてあつたと云ふ皮能忍さんとその夫人の蘇英珠さん。農村社の徐萬達さん。白鶴學院の李仁榮さん。李さんの弟さん。それに清道の養蠶をしてゐられる黃鐘禧さんとその夫人の許禮粉さんも何時でも手傳ふと云つてゐられるとか。七八人の人々がシオン村の爲めに祈つてゐられます。

この樣に朝鮮でも同人の方々が一つになつて、新しい試みのために祈つてゐて下さるのはどんなうれしい事であらう。今後京都の一燈園との連絡を忘れない樣に常に結んでゐたい、と李さんの云はれるのをそのまゝに屹度連絡を忘れない樣にしませう、と云つた事でした。

話が終つて、李さんは李鐘舜さんに朝鮮語で何か相談してゐられた樣であつたが、私には通じない。

もう夜も更けたらしい。離れでは婦人の方々は眠しづまられたらしい。靜かな中に只燈が赤く語る人と聞く人の顏を照らしてゐる丈けでした。

村の同人達と一所に祈らして貰へる幸を心から感謝して寢に就きました、鐵原の光鄉の深まるを祈りつゝも。

折にふれて

八田勝三

×

『佛樣は私達を裸で此世へ遣はし、行くべき所へは裸で連れて行つて下さる。その道中だけが裸で出來ないとすれば、佛樣程無慈悲な方はない。若し如何してでも持たなくちやならないものなら、必要なものだけは、きつとその時〱に授けて下さるに違ひない。その佛樣の御心に背いて、自分の慾や一家だけの利益それはある一家の繁昌は直ちに他家の衰亡の禍因を作つてゐるやうな利益のために、持つてゐるやうな氣分でゐる時、私達は當然その報いを受けずにはゐない。二つ持てる内の一つは他人のために何時でも役たつやうにお預かりしてゐるのでなしに、他人のなくて叶はぬ一つを奪つて來てゐるのだから、既に地獄は現出されてゐる。光や水や空氣などそれなしには、私達が一刻も生きて居れないものでも、値ひなしに一樣に惠んで下つて、默々の裡にちやんと例を示して下さつてゐるのも氣付かないで、勝手氣儘な生活を續けてゐる間、私達には永久に平安は惠まれないかも知れない。要は佛樣の御心を信じて、無條件で裸の生活をしてみることゝ。裸でゐる時だけ佛樣の深い〱お慈悲が分るやうに思はれる。』

或るお婆さんとこんなことを話して半日暮したことがあつた。

×

捨てるといふ言葉に囚はれて、折角持ち合してゐるものを、强いて忘却のやうな狀態におかうとでも骨折つてゐたら大變である。捨てよとは、混雜の種子になるやうな持ち方を整理することで、一切を生かすやうな持ち方になるなら其儘役にたつのぢやなからうか！丁度毒藥も用ゐ方によつては藥になるやうに……。然らば一切を生かすやうな持ち方はと云へば、一切と

共に生きる立場に本當にはつきりとたつ時自然に體得出來るものだと思ふ。己身にはつきり死ねば捨てるべき何物もなく大自然と一つになつた世界では一切が肯定される筈だと思ふ。唯混雜を増すにすぎない持ち方より出來そうにもない。歩みにしか達してゐない者には暫らく捨てよと强調して混雜の根をきるに便利な云ひ廻しを用ゐたので今までに習得した全部を文字通りに捨てやうとなら恐らく神經中樞の一部を切りとりでもしなければ出來ない相談だと思ふ。

×

『わざ〳〵他家へ行つて托鉢しなくても、その氣持ちで家でやれば同じことぢやないか。』斯う云はれ一寸成程と早合點して其儘家でやらせて貰つてもぴつたりしないで間誤ついてゐる人や、在園後呼ばれて歸つてみたもの丶何處かに落ちつかないものにぶつかつて考へこんでゐる人が可成り多いと思ふ。一體その原因が何にあるか調べてみるのも無駄ではあるまい。

先づ第一に私達がはつきりととび超えてゐるものだつたら、何處から呼ばれても誤魔化されない力量を備へてゐるであらう。次に力足らざるものとても、此生活にたつ者は、全體の成就を祈る者で、同じ立場にたゝない家族に對しては一有緣の家以上に扱へない境涯に住するを知れば、前言に對する態度は自ら決せられるわけである。緣に應じて家族の家で祈るのも好い。唯うつかりしてゐると托鉢が普通仕事に墮して祈りの籠つてゐないものになつて了ふうらみがあることを忘れてはならぬ。

×

靜思すれば大概の事は起り得る可能性のあることが何等かの機緣にふれて偶發したにすぎない。先年の震災にしても、地球上地震が起らないと保證された土地は何處にもなし、燒けない家は人智ではまだ作られてゐないのだし、『人は死すべきものなり』と極印うたれたものが死んだまでぢやないかとも云へる。何にしても私達はもう少しひつかゝらない工夫が肝心だ。

—大正一四、一〇、一〇—

Ａ氏にあてたる

嵯峨德水

Ａ様

私は貴下とは未見な者でありますが、今度問題になりました御家庭の事に就いて、斯く不德を顧みず所信を申上げて、御同情を表し度いので御座ゐます。

Ａ様

今度御令閨Ｓ子様の去就に關しての御衷情は、同情の辭も無い位であります。嘸御心中には「愕、憤、熱、悲、慨、悶、懊、怨、自省、苦、自失、恥」と焰々として燃えるものがあつた事と御推察申上げます。此のつくされない悲境に立たれて猶毅然として愛を稱へられし、超人的御心情をまことにお慕しう存じます。

Ａ様

今度の問題を私は、自然のあやまち植ゑ付けられて居た運命と觀ますと謂ひ度いのです。此のあやまちを責めるとせんか、即ち自分が自然と同化して後に顯れるものであらねば眞の決定の價値が認められない筈だと信ぜられます、そうしてこゝから出た決定の現れならば、必ずや先の過を責め得られないで却つてこの過を樂々と抱擁する洋々たる愛が溢れ出るので、即ち大自然と合體した心が、神と一つに成つた時だと信じてゐますから………就ては今度貴下の執られたお態度が實に私の所信を裏書して餘りあるものと感銘いたし、失禮を顧みず愚書を差上げるに至りました次第です。（九月八日大朝紙上發表の御意見を讀む）

Ａ様

今度の問題に就いては道義的にも社會的にも多くの輿論が湧きませうけど、結局は「本は一也豈枝葉を問はんや」です。

茲に一旦結ばれた夫婦の愛は必ずや純潔を極めたものがある筈です、二人で誓つた筈です、神とも誓つた筈です、即ち誓ひは義です、義を忘れて人道が在りませうか。

A様

どうぞ御令閨を赦して上げて下さい、本當に許して上げて下さい、そうしてこの儘默つて熱愛を傾けて下さい。貴下の胸底の泰山に似たる大覺悟は是れで（九月九日大朝紙上での御意見）竭されて居るやうです、若しも未だ肚腹に殘る言が御座いましたら此際默つて耐えて下さい。

A様

（九月九日大朝紙上によれば）N氏の反諫に一擊されたる貴下の苦衷は大に同感を表してやみませんが、又翻つて其の一鞭を貴下自身の純愛のためにも鞭打たれん事を、切に〳〵祈つて居ります。復茲に一事貴下に血涙をそゝぐものはD會の反對意見です、然し夫れに對するに一方老成派が對峙して居ます。（この間の經緯は克く知りませんが、九日の大朝紙を見て）斯の渦中に超つて、儼然搖ぎなき愛のマストの元に斷行されたる御英姿は私の最も讃仰してやまない所であります。

A様

「愛なき藝術は枯死せん」と言明されるに至りたる此後の貴下の一睨が如何に天下の俳道否藝術界にショックを與へ、猶汎く思想界に影響したかは、知る人ぞ知ると信じます。

A様、

S子様の叔母A子さんの御意見（S子は赦さ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

れてもA家へは歸れまい）は普通第三者の輿論の聲として、是亦大いに貴下方御夫婦に刺戟を與へるやうですけど、かゝる常套語には耳を藉されず只一途に光に照らされたる自分を暸り現される事が、眞實の道だと思はれます。

A様

是の如く非文禿筆をも顧みず熱記します私は夙に夫婦問題に關しては、現在貴下の執られたる覺悟を持つて居ります、尙又子供の有無に拘らず絕對赦さねばならぬことに決めてゐます、私には離緣はないのであります（先方から去る時は此の限に非ず）。

現に私の親友にも不幸にして今の禍が生じた時、私は萬人の聲を斥けて、彼の人等に結んで貰ひました。（これは貴下の問題に酷似して居りまして、隱れ先は北海、矢張り親身兄妹の人のあつせんによりました。この人方には、男の子二人あり、知名の家です。）

A様

終に一言黃口兒の苦諫を呈したきは、今や純愛に熾えて居られる貴下も「堅いものはこわれ易い」の譬で、ひよつとして昨是今非の理にもごられる事もやと、只之のみが私の杞憂であります。

最後に「人ヲ愛シテ親マザレバ其ノ仁ニ反ル」大聖の一句を藉つて不德者の熱禱を捧げて筆を擱きます。合掌

（一四、九、一〇）

ひたすらに淋しき時や秋の雨　A

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

屋根裏の幸福者

すゞき五ろう

屋根裏の幸福者

私 くらい
幸福(しやわせ)な者は あるまいと
今朝も 思ひました。

三日も 前から
雨が 降り續いて
居りますので
外も 掃けず
いつもより 少し早く
竈の處で 御飯を
戴いて 居りますと、
お向いの 仁吉さんが
「すゞきさん これお上り」と
大きな お丼に
御茶粥を 一杯
持つて來て 下さいました。

私は もう最後の一杯を
戴いてる 處でしたが
餘り(あんま)有り難かつたので
無理から 拜んで
戴きました、
それでも 私は
ほんとに 幸福でした。

仁吉さんの 處は
四疊敷 たつた一間に
親子二夫婦が
住んで 居られます、
お神さんは 花賣り
娘さんは 一杯一錢の
アイスクリーム賣り
御自分は お婿さんと 二人で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天氣の日には
山へ竹を　切り出しに行つて
せつせと　稼ぎます、
そうかと思ふと　この冬には
長田神社へ
「どうか　ばくちに
　勝たして　下さい」と
寒詣りを　したそうです、
「あれには　神様も
　お困りなさつたろう」と
うちの　お神さんが
笑つて　居りました。

私が　何でも
餘り物でなければ
戴かない樣にして居るものですから
方々から　賣れ殘りの花を
持つて來て　下さいます、
私が　留守の間に
何方かゞ　机の上の壜に
挿し代へて置いて　下さつた
一枝二枝の　美しい草花が
疲れ切つて　歸つて來た
私を　どんなにか
慰めて吳れる　ことでしよう、
時には
壜やら　コップやらに
あやめや　薔薇や　菫やが
挿されて　机の上一杯に
なつて居る　こともあります、
私の心は
どんな王宮の花園よりも
屋根裏に　貧しく咲く
これらの　花で
淨められるか　解りません。

あなたは　人間の本性を
どんなに　お考へになりますか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人間て　ほんとに
不思議な　ものですね、
人間て　ほんとに
可愛いゝ　ものですね。

五月雨頃

五月雨頃の　貧民窟は
まるで　喧嘩の坩堝です

雨が續くと
稼ぎには　出られず
遊びに行くには　金が無し
無理算段して　酒を飲み
質八置いて　ばくちを打つ

薄暗い　家の中は
じめじめして
腐つた屋根から
雨が　漏り
磨り切れた　茣蓙に
虫が　湧く

お神さんの　泣き言
亭主の　むしやくしや腹
口より先に
手が出る　足が飛ぶ
摑み合い、
火のついた様に
子供が　泣く、
隣りの棚から
お丼が　轉げ落ちる、
こつちも　默つちや居られない

向ふ三軒　兩隣りが
一時に　わめき出す、
此の世に　ありとある
呪の言葉が　爆發する、
犬まで　うろうろ
吼え立てる

雨ばかりが
灰色の空から
寂しく——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

入信難

茨　木　操

何物にもせよ求めて得られないのは苦しいものです。信仰を求めて信仰が得られない、私はそうした入信難に苦んでゐる者の一人でありま す。

皆様どうぞお教へ下さい。

信仰といふものは全體どうすれば獲られるものでせうか？

宇宙は偉大なる叡智の顯現であるといふ點から私は神佛の存在は信じます、そして總てのものはこの神佛に支配されてゐるといふことも信じますが、神佛の慈愛といふことだけは信じかねます。慈愛の解らない人間なのですから隨つて感謝も法悅も懺悔もないのでせう。

物質文明に中毒された私の理智は常に證明を求めてやみません、不可見であると知りつゝもなほ神佛の御姿を見たいと思つてゐた位ですから況んや慈愛をやです。私の胸底には奇蹟を期待する心が潜んでゐて、神よ信仰の爲に我等に奇蹟を示し給へと叫んでゐます。だが奇蹟などはあり得ない、私達が斯うして今日の一日を安らかに過したのも、それが奇蹟であり暖い神佛の慈愛の現れであるかも知れないが、私はそう朴直に受取ることができません。信仰のない私には懺悔もありません。事に際してあゝ惡かつたと悔いることは度々ありますが、悔いるだけで改めるといふことはありません。つまり私の懺悔は龍頭蛇尾に終るのです、途中で誤魔化されて了ふのです。私の良心をもつと深刻にえぐつて欲しい、さほど慚愧を感じないといふのは、私の良心が痲痺してゐるか、それとも犯した罪が小さ過ぎるのかである、もつと大きい罪を犯したならばもつと深刻な懺悔ができるだらうか、とまで私は考へることがあります。

信仰のない私には法悅もありません。一體、天に踊り地に躍るやうな白熱的の法悅が私達に

獲られるものでせうか？

「念佛もふしさふらへども踊躍歡喜のこゝろおろそかにさふらふこと、またいそぎ淨土へまいりたきこゝろのさふらはぬはいかにとさふらふへきことにてさふらふやらんと、もうしいれてさふらひしかば、親鸞もこの不審ありつるに唯圓坊おなじこゝろにてありけり」とは、歎異鈔における親鸞聖人の御述懐ではありませんか。あゝ信仰は難きもの哉、身は苟且にも一宗の開祖にして一代の宗教的天才である親鸞聖人に於て如斯、とは畏れおほき言分ではあるが、餘は推して知るべしではなかろうか。

一燈園は懺悔の生活である信仰の生活であるといふことを前提として、假に私が――不信者の私が――道に志して入園を許されたとしたらどうでせう。この場合わたし自身としては強い自責を感ぜずにはゐられません。何故なら私の園生活は明に虚僞の生活なのですから。然らば何故に虚僞の生活か、御承知の如く園生活には扮飾がないから、誤魔化しがないから。即ち表には懺悔信仰の生活で御座いと標傍しながら、その實は無信仰であり無慚無愧であるしれものの形だけの園生活がどうして虚僞でないと言へやう。それは自らを欺き人を欺く偽善者でなくて何だろう。由之觀之、結局は道に志したものでも信仰のないものは園生活が出來なくなる譯になります。園生活が不可能ならこの人の發願心は伸ばされずに埋めて了はれるのだろうか、善を抑へることは明に不可ない。然らばどうすればいいのか、虚僞の生活は何等かの理由に依つて許されずばなるまい。若しこれを信仰獲得の手段として考へたら如何、形だけの園生活でもそれを重ね精進してゐる裡には眞實の信仰が生ずるといふなら亦恕すべきであろう。然し、果して形だけの修道生活から眞實の信仰心が生ずるものであろうか？　私はなほ疑はざるを得ないので敢て拙文を草して皆樣方の御垂敎を仰いだ次第であります。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

路を斯う經て參りました

京都　K　N　生

皆様同人は一燈園傘下に御集まりになりまして、不二の光明に浴し、懺悔の爲めに奉仕せられる。之れに對して私は批評するの僭越は敢て致しませぬ。併し私の今日まで思ひ且つ行ふて來た徑路を其儘申し上げて、其然らざる點の御教示を仰ぎ度と存じまして、茲に自己の徑路を告白致します。

己れの身の働き得る夏期に於て、孜々として働き、己れの身の働き得ざる冬期の貯へを爲す、彼の蟻、蜂の行動に見ても思ふのであります。我々も青年壯年の働き得る時に力一杯働き其報酬の中より幾分づゝを貯蓄し、以て己れの身の働き得ざる、病氣、老衰に備へ又他を煩はさゞるべしと。斯く相考へ若年より一生懸命に勤儉貯蓄し、家をも持ち子女をも養育し今は靜に老を養ふ者であります。斯く考へ斯く行ひ來つた者であります。働き得る間に餘財を蓄積せずしては、他日を如何せんと憂慮した者であります。只漠然と其時は他の惠みを受くるであらうと安心し得ざりし者であります。惠まるれば幸ひ然らざれば只手を拱して死を待つが如きは、策の得たるものにあらずと考へた者であります。又自己の後繼者（生物保存）を教養する義務ありと感ずる者であります。自己が衣食し得る而巳にては、子女を教養し能はざるべしと考へる者であります。

○**表紙題字**　神護景雲四年五月八日附の古文書「普光寺牒」（早稻田大學圖書館珍藏）から頂きました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

未明の先驅者（二）

水上鐵治郎譯

二　マラー

『民衆の味方』として聲名を一世に轟かせたジャン・ポール・マラーが、血に餓えた慘虐の惡鬼の如くに見做されて居るのは、實に史家が舞文曲筆の結果である。

　フランス大革命當時、彼は、幾多の貧民窟の家庭からは、愛の權化の如く仰がれて居つた。しかし、他方、あの押しひしやげたやうな姿とみそぼらしい衣腐つた一張羅の弊衣と蛙のやうな溢面の彼は、恐ろしい毒氣を含んだ怪物としか思へなかつた。事實、それらの人々にとつては、往々、彼は死神の使者であり、洋々たる希望を破壊し盡す惡魔であつたのである。

　ルーソーを敬慕私淑してその使徒を以て自任せし彼の思想は、政治上の完全なる自由と、虐げられしものゝ解放と、特權と暴虐とその支持者の打破絶滅以外には出でなかつた。この使命を果さんが爲め、彼は二ヶ年の間身を潛めて宣傳に專心した。その間、産を破り、身を害うたのは云ふまでもない。永い間の地下室生活の苦患、殊に劇烈な皮膚病の苦しみを彼は備さに味つたのである。

　彼の言論の激越奇矯なる當代無比と云ふべく、しかも彼が牢乎として抜くべからざる勢力を扶植し得たのは、實にその生得の警眼の賜物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

であつた。苟しくも不正虚僞の存するところ、凡眼の之を看破し得ざるに、彼の眼光は炳々として之を剔抉して假借するところなかつた。ミラボーの心事を最初に暴露したものこそ、實にマラーであつた。

一七九二年國王は既に退位し、勝に乘じたるドイツ軍が、革命黨全滅を標榜して國都パリーを指し潮の如く襲來せんとせし折柄、獄の內外にあつて侵入軍と氣脈を通じつゝありし王黨側陰謀者の卽時撲滅を主唱したのは、彼であつた。

再三再四の主張も、容るゝところとならないのを見た彼は、潜かに民衆をして入獄者の處刑を行はしめたのであつた。之ぞ所謂九月虐殺である。復讐は間もなく來た。壓制者の實例を報告すべしとのことで引見を許した少女の刃に、彼は斃れたのであつた。

九月虐殺こそ、彼の事蹟中でも最も陰慘を極めたものであるが、一方それほど彼は、民衆の正義の觀念を信じたものだと云へないこともなからう。この事件終了後、全國の志士は安んじて各戰地に向ふことが出來た。斯くしてフランス大革命の戰史の發端は初まるのである。

三 ロベスピエール

フランス革命に於けるロベスピエルは、ロシア革命に於けるレニン以上の獨裁者ではあつたが、彼が初めて三部會（エタ・ゼネラール）に地方代議士として席を列ねた當時は、彼が斯くの如き統率の才ありとは、何人も思及ばざるところであつた。

音量から云つたとて、ダントンの朗々人を動かす力があるでもなく、瀟洒たる短軀は人を壓する威容さへなく、額の拔け上つた、唇の薄い蒼白の面貌は、一見して、偏狹なる衒學の徒た

ることを示して居るにすぎなかつた。一擧手一投足も遲々として逡巡し、辯論亦力なく、吃々として振はなかつた。彼の長所は中々多かつた。しかしそれらと雖も、凡て消極的の性質たるを免れなかつた。己を持するに謹嚴篤厚なりし彼には、節を賣るなどゝいふことは見られなかつた。異性に對してはあくまで慇懃ではあつたが、決して輕佻浮華の態度は示さなかつた。徹頭徹尾、自由平等博愛の原則を嚴守して枉げるところなかつた。初舞臺に於て認められなかつた彼も漸次その勢力を養ひ來つた。やがてジヤコバン黨のジロンダンを斃す頃は、異常の人望を博し得たのであつた。彼の清節と主義に對する不措身命の決心と、嚴肅なる生活とは、よく當時の人心を收攬し得たのであつた。唯不幸にして、この種の人の常として、彼には追隨者乃至崇拜者は多かつたが、協働者は極めて少數であつた。

ジロンダンと王黨とが、全歐洲の兵力の擁護の下に第一共和國に對して鋒を逆にして起つたとき、當時のフランスがよく之を擊破し得たのは、史上有名な事實である。この目覺しい武勳を奏し得たのは、實に公安委員會が敢行せる恐怖政治の結果であつて、當時委員會の主腦として、苟しくも臆するものをば仇敵として容赦なく處分せしめたのは、ロベスピエールに外ならなかつた。

斯くて彼は、漸次理想的共和國建設に向つて一歩一歩を進めて居つた。自ら短所の少なかつた彼は、平等の確立し、民衆の意志の尊重せられ、暴虐なる王侯の滅び、『最高實在』の迷信的儀式を要せずして信仰さるべき時代の實現にとつて、流血の慘事がいかに障碍となるべきかに思ひ及ぶところなかつた。斷えまないギヨー

チーヌの響は、彼にとつて止むを得ざる時宜にすぎなかつた。

彼が一八九四年に斃れたのは、實に一脈の眞理の光がさし初めた結果であつた。理想の共和國には、死刑の撤廢さるべきことを信じ初めた彼は、先づ公安委員會内で、密かに死刑の數を制限せんことに努力し出したのである。同志は反對した。斯くて極左過激派の一味と當時流血に倦みし國會の大衆とは、相結んで一大同盟を成立した。

喧々囂々たる一場の討議の末、遂にロベスピエール逮捕に決した。彼の友人は彼の爲めに釋放を願つたが、彼を逮捕した施設を以て民衆を代表するものと信じた彼は、自らを殺すべきその施設を打破し得ず、遂にギヨーチーヌの露と消えたのである。時に革命第二年テルミドル月第十日であつた。

彼の死後、過激派は遂に恐怖主義續行の不可能を覺つた。斯くして、ロベスピエールを以て血に餓えた惡鬼となし、彼の死を以て穩和派愛國者の謀叛によつて斃れたものとなりとの風說は生じ、世間は久しく之を信じて居つたが、その後委員會の秘密書類を調査した結果、前述の始末が發表されるに至つたのである。

園を離れ行く人々補拾　S生投

お光を限定する人、お光を偏見する人、お光まかせになれない人、お光を試す人（弄ぶ人をも含む）、お光にそむく人、大孝に生きえない人、大我に觸れぬ人、變態的眞理に惑溺する人、死に切れぬ人、不動心に欠けたる人（お光の名にかこつけて自由托鉢する人）、信仰を享樂する人、行から想へ還る人、第二念に墮ちる人、自然に本義を沒却する人、どことなく寂しさを感じる人、柔に徹せずして强を逐ふ人、似て非なるものに迷ふ人、益友を惠まれぬ人、獨創慾にかられる人、獨斷に流れる人、方便を濫用する人、自分に賴る人、策を弄する人、素直になれない人、力む人、動作の鈍い人、横柄な人、性的に亂れる人、姿勢服裝の整はぬ人、沈着を欠く人、入園後に病氣勝ちな人、過を重ねる人、一寸借りたがる人。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

英國社會運動史（一）

松下吉衞

一　序

社會改革の必然性　諸君は嘗て鷄の卵を孵化させた經驗をもちたまふや？　卵には卵としての生命力があり、あの卵殼の內にあゝして納つてゐることが最も自然であり安全でもあるのであるが、之れを母鷄に抱かせると、一日々々內なる生命力は成長して行き、遂に第二十一日に及べば、自ら內部より卵殼を突破つて世にも妙なる雛は產れ出づるのである。

奇しき生命力よ！　生きんとする意志よ！　この力の進展をよく阻止するものなく、この意志は如何なる抵抗をも排除して突進せんとする。

鷄の卵としての生命力には、卵殼を以て包まれた形態こそ最も適當したものであつた。しかし、それが雛となれば生命力は一段と進展してゐるので、それ相應な形態への變革を、生きるためには是非なく必要とされる。

このことは、生物界を通じて、眞なりとされてゐる。

人間も亦一面ある種の生物に外ならない。たゞ他の生物に比し生命力が非常な發達を遂げて複雜な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

社會的生活を營むやうになつてゐるので、鷄卵の如く簡明に說明し去ることは、容易でなく又妥當でもないが、靜かに人間の歷史的發展、社會組織進化の狀態を觀察するのに、此の方則を人間社會を支配する最も重要な原理の一と認めないわけにはいくまいと思ふ。

事實が事實を說くであらう。

嘗て吾等が祖先は道具を發明した。猛獸怪禽を征服して今日人間が地上の王となるに至つた基礎を築かしめたものは實にこの道具であつた。かくて、牧畜に漁撈に農耕に、生活資料の採取の容易と豐富とを來して、人口の增殖と文化の樹立とが結果されたのである。

しかも、限られたる天地に限りなく增殖する人口を收容していくわけにはいかない。種族の移動がやがて起つた。未開地の開拓が續いて試みられた。同時に社會生活の形態も之に順應するやう變革され、太古の共產制は廢棄されて、族長專制となり、また封建制度の出現を見た。新大陸の發見も、喜望峰の廻航も、乃至一般通商貿易の發達も、同樣の理由によつて最も適當に說明される。

近世に入つて人間の歷史は未曾有の大變革に出會つた。それは、機械の發明に伴つて、產業を中心として社會生活の形態が根本から變革されたことである。世人はこれを『產業革命』と呼んでゐる。今日謂ふ所の『ブルヂョア階級』(有產階級)は、其の起原を中世の封建制度下に發してゐるのであるが、この『產業革命』を經過して後、急かに威勢を逞うし來り、フランス革命を演じて封建貴族に止めを刺し、自由平等の旗幟を揭げて人間性の解放運動に功を成して後、遂に現在見る如き社會の支配的地位を占有するに至つたのである。

道具の發明がさうであつた如く、機械の發明も亦人間の生きんとする意志の已む可らざる具現と觀る可きである。なぜなら、幾何級數的に增加する傾向ある人間は、算術級數的增殖しか事實には爲し得ない生活資料の生産を常に人工的に增大を計つて行くのでなければ、その存在を脅かされねばならないから。

機械發明の結果に見よ。生産力の增大、げに驚嘆に價するものがある。一二の例を擧げるなら、千七百七十年、ハーグリーブスが、紡績機械を發明した爲めに從來一人一錘の能率が急かに二百倍したのであるが、今や一人の職工一時によく一萬二千錘以上を運用してゐると云ふから、その生産力は略一萬二千倍したと見ることが出來る。又留針の例にしても、簡單な道具で各戶に製造するとすれば一人一日二十本を生産することは非常な困難であるとされてゐたのに、今日精巧な機械を以てすれば、一人一日優に千五百萬本を生産し得ると云ふ。更に之を農業について見るのに、機械の應用が最も良く行はれてゐるといはれる米國ダコタ地方の例をとるなら、一人一ヶ年の平均生産力は、小麥五千五百ブッセル(約千百石)の產額に相當すると云ふことである。

生産力の急激にして異常な增大かくの如しとすれば地は裕でよい筈である。人間の生きんとする意志は充分に滿足されてゐる可きである。一專門家の計算によれば、現在世界各國で用ひられつゝある蒸氣力だけで、優に十幾億人の勞働力に匹敵してゐるといふてはないか。然るに、現前に事實として、社會に不安があり動搖が絕えず、生きんとする意志の喘ぎが惱ましいまでに聞かれるのは何が故であらう?

古から食ふに困つた人々はあつた。奴隷も居た、農奴も居た。然しながら、現時の生の喘ぎは産業革命を經て來た上にフランス革命によつて猛火の洗禮にあつてゐることを忘れてはならない。

産業革命は、人間の社會を截然と二分した。有産者階級と無産者階級とがそれだ。私有制と競爭制とのために、有産者階級は益々産を成し、社會の富が少數者に專有されるに至つた。現に英國など國富の十分の九が國民十分の一の手に掌握されてゐるといはれる。かくて富を中心に社會が運營され、富の力で人が人を支配し得るに至り、無産勞働者が被搾取階級として殘されることになつた。これだけなら、まだ問題は起らないが、フランス革命は、有産者階級に自由と平等とを齎らしたと共に、人間性の尊嚴を廣く民衆に敎へた。今、民衆はそれを自覺して居る。そして人間の生活といふことを本氣に考へ始めた。社會的の生産に個人的の分配！富力を基としての人による人の支配！驚嘆に値する富の蓄積！而かも、少なからぬ人々の生きにくい事實！何といふ不合理だらう。彼等は猛然として奮起した。所謂社會問題とは是れ。

生きんとする意志の不可抗力よ！社會問題がその根を深くこの力にくひ込んでゐる以上、如何なる特殊國でも、生きんとする意志の阻まれた階級が殘存してゐる限り、說得や協調などでは、これのかたがつく筈はあるまい。これをどう取扱ふか、いかに解決するか？社會と國家の運命は今、係つてこの一事にありはすまいか？

旣に産業革命を經過せる以上、吾等に雖たるの『生命力』は具備されたと見るべきである。問題はたゞ卵殼を突き破るにある、どう突き破るかにある。破り得ざれば枯死あるのみ。

あゝ、何國がよく卵殼を破り得るものぞ？　又何國が卵殼内で枯死するの運命を擔はされるであらう？　露國に觀よ、獨逸に考へよ、又英國に察せよ！　而して具さに日本を熟慮すべし！　露國に獨得の國情あり、レーニン等が鋭き嘴となつて卵殼をみんごと內より突破り、雛は健氣にも產れ出づるを得たが、さてその育成は如何？　獨逸の明日知る可らず。英國はすなはち如何？　隣邦に世界の癌支那を控へ、太平洋を隔てゝ世界の資本主義國米國に對する日本、誰かその將來の國運を獨り安泰なりとなすものぞ？

英國は產業革命の先驅國、その產物たる社會不安を經驗すること最も長く、且、島國の關係上、比較的大陸諸國の影響を蒙ること少なく、吾等が因果關係を辿つて、照合すべき先例を求めるに適合してゐる。マルクスが後半生の心血を濺いで編むだと云ふ彼の有名な『資本論』も、彼れが英國經濟史研究の所產だときく。英國社會運動史をものする所以。

二　產業革命の前夜

ストライキは歷史の舊きが如く舊し　といはれて居る通り、史家は紀元前一四九一年既にエジプトに於けるヘブリユー人の煉瓦製造工が、藁を用ひずに煉瓦を燒くことを强ひられたに對して反抗した事例を報告して居る。之は見樣によれば、紀元一八九二年スタリイブリッヂの綿絲紡績工が粗惡な原料を供給された爲め之に反對して企てたストライキの奇異な先驅であるとされぬこともなからう。かうした、上古もしくは古代に於ける、被征服民の反抗、奴隷の敵對、農奴の一揆等と、現今の所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謂社會運動とは、被壓迫者被征服者が權力者治者に對する、自由の要求、解放の主張を根本としてゐるといふ點に於ては、本質的に、何等差別をつけるべきではなからうと思ふが、その階級的でなかつたこと、要求が一時的物質的であつたことゝは、日を同じうして語るべきであるまい。

中世紀の例　中世紀に於ても、例へば、第十四世紀に、『ケントの狂僧』と呼ばれた彼のジョン、ボール John Ball が、基督敎社會主義的思想をもつて農民戰爭に活躍した如き、一三八七年倫敦製靴業者の被傭者が、其管理者に對して反抗し常設的組合の組織を企てたる如き、一四一七年、倫敦の裁縫工が『被傭者及び職人』といふ團體を組織してその親方から離れて住居集會したる如き、又一五三八年、ウイスベッチの職人及び製靴工が市外の丘陵に集合し代表者を派遣して賃銀値上の交涉をその親方に對して斷行せる如き、一六九五年ベルアー Beller が産業團 Colleague of Industry 建設の運動の如き、降つて一七七五年、スペンス Spence の土地國有論の提唱の如き、壯烈にして血を湧かしめるやうな運動もないではなかつたけれど、今日の用語に依る社會運動の名を以て呼ぶには、少し無理がありはすまいか？

何しろ、中世紀には、經濟上の立身出世の道が、ひろく許されてをつて、熟練手工業に年期を入れた職人などその雇主と社會的地位を同じうし、産業も多くは數名の職人を雇傭してゐたに過ぎない親方によつて經營されたのであるから、勤勉な職人が賃銀勞働者として過ごす期間は大凡五六年を出でなかつたし、彼等の多くは親方の娘を娶るかさもなくとも暖簾を分けて貰つて自分自身店を持つ習はしであつたのだ。イングランドの市史の古記錄には、賃銀に對する不滿をいだいてゐた職人について

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の記事が散見されるし、親方と職人との間に全然問題がなかつたとは想像されないことは勿論であるが、經濟的階級の越え難き溝渠が今ほど深く掘られてゐなかつたから、今日の所謂社會問題の生れやう筈がなかつたのである。

因に、此の時期の社會問題に關する著作としては、ラングランド Langland の詩『いしづえ農奴』(一三七年)があり、又トーマス、モーア Thomas More の有名な『無何有鄕』(一五一六年)がある。

社會運動は十八世紀から　一七〇〇年以前には、下院の日錄を見ても、當時發行になつた數多くの小冊子や大阪の書籍によつても賃銀勞働者がその雇傭條件を維持し又は改良するための常設的團體が存在してをつたといふ證據は少しも發見されない。ところが十八世紀に入ると、熟練手工が『最近に創立した』團體に對する苦情が職業によつてはあちこちに散見される。これらの苦情は年代の進むに從つて愈々增加して行き、勞働者の組織的團體が之に向つて反對の非難をなした記事も見出だされる。而して十八世紀の後半期になると、熟練職工の間に職工組合の存在したことを示してをる。請願と反對請願とで下院の日錄は蔽はれてゐる。(シドニイ・ウエッブ)

これによつても明かな通り、社會運動のあらはれは初期に於て職工組合の承認運動といふ形をとつたのである。

職工組合の起原　職工組合はある特殊の團體からではなく同一職業に從事して居る賃銀勞働者のあらゆる集會の機會から起つて來たものらしい、とウエッブ夫妻は言つてゐる。例へば現存の最も古い職工組合の一は『一パイント(三合一勺半)の黑麥酒を、一所に集まつて飮む爲め』の職人の會合から

起つたと信ずべき證據があり、又同盟罷工が緣をなして常設的團體を組織するに至つた例も少なくない。其の他、勞働者が下院に請願する爲めの集會や、ある新法令の制定、若しくは現行法令の强制を促す運動のための會合や、乃至仕事を見付ける相談に一定の居酒屋に寄り合つた職人の集團が、組合の起原をなした例もある。或は又『職人達が一所に集會して、相互の親睦を計り、眞のキリスト敎的慈善を奬める團體を作ることは、英國古代の風習であつた』と宣言して、疾病葬儀の救濟扶助俱樂部を組織し識らず知らずの間に共濟資金を有する職工組合に發達して行つた例も見られる。彼等はその集會に於て、雇主の出さうと云ふ賃銀を論じ合つたりした。これら、職工組合のなりたちの模樣を示すために、左にペイズレイ職工の集會に關する趣味深き記述を引用するであらう。

『ペイズレイの職工は、どんな事柄でも、共々に語り合ふのが好きであり、俱樂部を作つて親密に結合して居た。集會は次のやうな順序で行はれるのが例であつた。最初の一時間は大聲にその日の新聞を讀むことにさゝげられる。九時になると議長は靜肅を宣し、職業上の報告が始められる。最初、議長は何々の織物製造の職工を募集しつゝある工場名その賃銀その糸の數等に關して彼れの知つてゐる限りまた他から聞き込んだことを詳細に說述する。それから種々な報告の朗讀があつて、ものゝ一時間とたゝぬうちに職工等は其の職業の狀況のみでなく工場主と職工との間に起つた異見などもすべて知ることが出來るのである。』

職工組合運動の先驅者　初期の職工組合が興つたのは、賃銀その他一般の勞働條件のよくなかつた農業勞働者や坑夫の間でなくして——彼等に同盟罷工だの團體組織だのあつたことを聞かない。—

―西部イングランドの羊毛工、ミッドランドの枠組メリヤス工等の團體がその先驅をなしてゐる。製造業に於ける原料と同じく、勞働力を最も安値に買はんとする產業上の新政策から勞働者を救ひ出さんとして政府及び下院に請願運動を開始したのは實にこれらの團體であつた。當時英國產業界に於ける作業方法の急激な變化と著しく擴張されつゝあつた市場とは、あらゆる階級の勞働者を差別なき待遇と『自然賃銀』とに平均しようとした。かうしてその慣習的賃銀に加へられた侵害を最初に感じ之れに抵抗して起つたものが西部諸地方の羊毛織工であつた。年代の進むと共に之に倣つて經濟社會の新狀態に對する反對運動に幾多の職工團體が參加して行つた。この中に製帽工、梳毛工、革師、籠職、更紗染工等が數へられる。

かくの如く徒弟のこと賃銀のこと其他一般勞働條件について、慣習上または法律上、數世紀に亘る保護援助を受けて、相當な生活標準を維持し來つた職人の間に、最初の職工組合運動の勃興を見たといふことは、吾等に單なる資本勞働の懸隔の事實のみでは社會運動は起らず、そこには必ずある程度の勞働者の自覺、溯つてはその自覺をよびさますに足るだけの彼等の生活の存在を必要とすることを例證してゐる點で萬人の注意に値すると思ふ。

職工組合の惡戰　一七一九年、ストラウド及びその附近の『廣布及び狹布織工』は、一五五五年の『織工に關する法令』の强制によつて、資本家衣服商の橫暴非道を懲戒してもらひたいとて國會に請願した。翌一七二〇年にはロンドン及びラエストミンスタア兩市の裁縫職工七千有餘名が、賃銀値上と勞働時間一時間短縮の運動を起した。彼等は目的貫徹のために行きつけの居酒屋を運動の本部に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

充て各々名簿に署名し迫害に對する備へに多額の金圓を徴收した。親方裁縫職側では困つて國會へ訴願するに至つた。國會は新法令を制定し、規定の限度を超えて賃銀を受拂ひすることを禁止すると共に、一切の團結を不法とした。ためにこれらの地方に於ける裁縫職工の團體は、その後しばらくの間實力は具へながらも正式でない形をとるの外なく、その數は優に二十を算するを得た。

一七四四年には、樞密院は動議を提出して一七二〇年の法令が職工等によつて嚴守されてゐないことを責めて居り、一七六七年遂に職工等の熱心な抗議も顧みられず更に苛酷な法令が發布された。

ウイルツ及びソマアセツトの職工は、一七二六年にその傭主である衣服商の酷遇と詐欺とを國王に上訴した。その結果、樞密院委員會は事件の眞相を調査して解決案として協定條項を起草したが、それによると將來不法な團結を作らずたゞ常に『正義に適ふ援助を賜はらんとしてゐる國王陛下の御前に正當な手段によつて訴願すべき』旨職工等に忠告した。職工等は下院には尙しば〳〵請願した。

一七二八年には、グロウセスタアシアーの職工は、親方衣服商の頑强な抗議があつたにも拘らず地方保安判事に訴へて、初めて州内の職工に對する賃銀率の改定に勝利を得た。二十年後彼等は國會から物品賃銀制の特別禁止を獲得する事に成功した。また一七五六年彼等は賃銀の値切りと安賣りの惡習を制止する爲め、下院に對して躍起運動を起したがその結果毛織物職工法令の通過を見るに至つた。

然るに間もなく産業政策に對する立法上の革命的變化がおこり、織工等は困惑と絶望の深淵に陷れられた。前記毛織物職工法令實施後一年もたつかたゝぬに、國會は同法令贊否の請願を無數に受取つ

た。衣服商は契約の自由と無制限競爭の利益を主張して止まず、雇主は同法令によつて裁判官の定めた賃銀率では愈々競爭の激烈を加へつゝある市場に立つて到底事業の經營に堪へぬと斷言して織工等はまたその慣例的賃銀の維持を正當として毫も讓步を肯じやうとしなかつた。國會は最初同法令を更に强固にしやうとする法案の起草をさへするらしく見えたが、結果は衣服商側の主張の勝利に歸し、全くの無條件で毛織物職工法令は撤廢されて了つた。この鬪こそは、ある意味に於いて、英國社會運動に一轉化を劃したものである。

一七七六年、ソマアセットの織工、紡績工、梳毛工、及びその他の毛織物職工が、シュプトン、マウレットに於けるヂェニイ紡績機採用の結果、彼等の仕來りの生活がいたく脅かされたことに對して下院に請願したのに、二世紀前には絕對にヂル、ミルの使用を禁じながら下院はもうその請願を受理することとすら斷然拒絕して居る。

かうした產業政策の根本的變革は廣く一般の職業に影響を及ぼさずには居なかつた。尙一二の例を擧げるなら、ロンドン枠組メリヤス工組合は、十八世紀の前半その內規を無視して省みない親方と不斷の鬪爭を續けて來たのであるが、一七五三年國會の精密な調査にあつた結果、職工等が一切の希望を繫いでゐたその組合內規は、製造業者にとつて弊害多いものと判定された。かうして同業に對する法律的管理の全廢は、少なからず不穩の空氣を職工等の間に釀したが、一七七八年に至つて遂に『イングランド、ミッドランド州內靴下製造工相互保護會』を建設せしめた。彼等は引續き次ぎの二年間法律上の保護を受けんが爲めに種々劃策するところがあつた。その躍起運動によつてナッチンガ

ム市から一人の代議士を下院に選出することに成功し、當時行はれて居つた非道極まる『安賃銀酷使制(スウエッチングシステム)』が下院の一委員會に暴露されるに至つたのもその努力の一效果と見ることが出來る。而して賃銀一定の法案が難なく第二讀會まで通過したのであるが、雇主等は大いに驚いて下院に於けるその勢力を糾合し苦肉の策まで弄して第三讀會に於いては形勢を急轉直下させてしまつた。これは職工側にとつてなみならぬ大打擊であつた。忽ち一揆はナッチンガムに勃發したが大勢はいかんともすることが出來ず、枠組メリヤス工は殆んど救ふ可からざる貧窮に陷るの外なかつた。

また製帽工組合は當時最も有力な團體の一であつたが、一七七七年親方製帽職から徒弟制限を廢さんとする法案を提出されたので激烈な鬪爭を開始した。ロンドン、バートンブリストル、チエスタア、リバアプール、ヘクザム、ダアビイ等から、請願は下院に雨と注がれた。職工等は徒弟制限の保護を受けてすら餘程の上景氣の時の外、數百の者は群をなして仕事を探すために英國全土を渡り步かねばならぬ旨を訴へた。下院は、しかし、雇主側の主張と證據により多く耳を傾け、その提案を容れてしまつた。

これらの社會的事象は何事を語るか？　時勢一變の兆！　英國の產業界は今何物かに襲はれつゝあるのだ。エンゲルスの所謂『靜かなる暴風』か？　學者は呼んで『產業革命』となしてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

東京一燈園より

●此度東京府下中新井村に禱建され候東京一燈園道場の開扉式わ、秋たけなわの十月十七日在京の同人光友相集い、伊藤猛兄司會の下にいとも虔しやかに擧行され候。擧式次第お略記すれば、

一靜坐讀經　一同
一報告　松下吉衞
一道場淸規奉讀　谷田部信量
一來賓祝禱　福原八郎
一講話　中桐確太郎
一講話　小此木渾沌
一挨拶　嵯峨德水
一挨拶　齋京守道

午後二時開扉、薄暮五時半にいたつて無事閉會。

●茶菓の饗應の後、引續き同人會開催、席上松下主事より左記東京一燈園規約の報告これあり候。

東京一燈園規約

一名稱　東京一燈園
一道場所在地　東京府北豐島郡中新井村大字中新井一二五八
一祈願　光明祈願
一道場淸規

身命財能お光に歸し奉れ。

常に敬虔お念ぜせよ。

互いに本具の光お禮拜し、芳心慈顔愛語お以つて相和ぎ、たとい心に叶わざることあるも我心に執して相裁く勿れ。

不斷の懺悔に住して只管下座お行じ、如何なる苦境に處するもよく安立の工夫あるべし。

偏えに報恩の心お持して懸命に奉仕し、一日作さずんば一日食わざるの覺悟あるべし。

世相お明了して自己に猛省し、各自本來の願行に過誤なからんことお期せよ。

平生簡素の生活に習いて無用お節し、不時非常の奉仕に備え、堅く飲酒、喫煙、貪食、淫行、妄語、好玩、奇嬌、粗漫に遠ざかれ。

托鉢願行のことわ宜しく當番の指示に從うべし。

信施の財物わ禮拜して之れお受納し即時當番に托してお光に歸し奉れ。

需品わお光の惠みお仰ぎて當番にはかれ。

一機關

相談役會　重要なる園務について協議す月一回開催（第四日曜午後、小石川區丸山町一九渾沌窟に於いて）

相談役　西田天香　中桐確太郎　小此木渾沌　伊藤猛　松下吉衞

主事　園務お預りまた本園お代表す。相談役會に出席して園務お報告し、その協議に參加す。

相談會の依囑にかゝり、任期三年。

現主事　松下吉衞

當番　主事とはかりて道場お預り、同人の托鉢修行について遺憾なきお期すること。

月々の會計お主事に報告すること。（翌月五日までに）

相談會の協議お經て主事これお依囑し、任期半年。

現當番　八田部信量

一同人　本園の祈願に同じ、道場淸規に則つて修行するもの。但し入園わ主事、當番の認許お要す。

一同人會　學道と淸遊のため月二回開催。（第二日曜日わ中新井の道場にて、第四日曜夜わ本所區林町二ノ七八働く者の家にて）當番座長お務む。

一安息日　月一回、第四日曜晝（都合あしき人わ次の日曜）

●當日來園者芳名　伊藤猛、小此木渾沌、中桐確太郎、奥田友三郎、福原八郎、井上範、宮城隆眞、淺海濟三、平岡さみ、畑山八重子、繁田四郎、松下吉衞、谷田部信量、嵯峨德水、齋京守道、武田管次郎、古田眞以智、野木典郎、磯山松男、久保田天牛、増谷幸平、大杉勝二、高坂譲、野木春世、土屋よし子、渡邊直吉、相賀靜江、高島光友、鍵山ふくよ等の諸兄姉。

●天香師遠く滿洲にありてこの記念すべき式典に御光來お得られざりしわ一同の深く遺憾とする所に御座候。

●九月三日の地鎭祭が雨、同九日の上棟式が同じく雨、而してこの開扉式が又しても雨。天意果して如何？

●開扉式の記念おかれ、同人光友日々讀誦の便にもと「一燈園經要」お刊行仕候。御所望の方わ東京・本所・林町二ノ七八同勞會宛御申込くだされ候わば御わかち申上ぐべく候。實費廿錢送料二錢惠まるれば幸甚に候。尚本經要の編纂にわ中桐小此木兩相談役に一方ならぬ御骨折おおかけ申候。感謝此事に御座候。

●京都より新たに招じ候嵯峨德水兄わ「働く者の家」お預かられ、相賀姉わ母子ホーム「愛の家」（市外瀧の川町西ケ原五一八）に托鉢して渾身のいのりおこめて居られ候。托鉢にわ處女地に近き帝都、今二人の兄姉お惠まれて悅ぶもの獨り吾等のみにてわ御座なく候うべし。（敬偉無）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可 每月一回十五日發行

現代婦人必讀の二名著

社會問題叢書 第五篇

安部磯雄・馬島ドクトル共著

產兒制限の理論と實際

生活の脅威と婦人の社會的自覺とは、今や普く國民をして產兒を適度に制限することの必要を痛感せしむるに至つた。たゞ何故に產兒を制限することが必要なるかの理論と、如何にして產兒を制限するかの實際方法とは、從來多くの人の知らんとして知る能はざりし所である。本書は理論を安部教授が、實際方法を馬島ドクトルが、各々その專門的立場より極めて通俗、平易、親切、叮嚀に解說敎示せるものであつて、これまで坊間に行はれし無責任なる類書とは全然趣を異にせるもの。

好評七版

四六判上製函入 定價壹圓 送料八錢

社會問題叢書 第八篇

山川菊榮著

婦人問題と婦人運動

一昔前までは、婦人問題といへば一部の婦人の奇矯な言動を指すものと考へ、婦人運動といへば「女壯士」の暴行ぐらゐにしか考へなかつたものである。今日では、最早さういふ無理解無關心は殆ど跡を絕つたにしても、しかし婦人問題と婦運動の重要さが、どこまで一般に理解されてゐるかは今尙疑問としなければならぬ。此の時、婦人問題の權威であり且つ閨秀論客の隨一たる山川夫人が多年の研究に基く親切なる解說書を公にせられたことは、日本の婦人界にとつて何よりの喜びである。

最新刊

四六判上製函入 定價壹圓 送料八錢

堺利彥著 現代社會生活の不安と疑問 價壹圓 稅八錢

赤松克麿著 日本勞働運動發達史 價壹圓 稅八錢

松下芳男著 資本主義と戰爭 價壹圓 稅八錢

山川均著 勞農露西亞の勞働 價壹圓 稅八錢

上田茂樹著 無產階級の世界史 價壹圓 稅八錢

守田有秋著 自由戀愛と社會主義 價壹圓 稅八錢

東京小石川小日向臺町二ノ一九 文化學會出版部 振替口座東京七二八〇番

發行兼印刷人 京都市烏丸頭小山下總町五回光社內 西田保太郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN